

\*\*\*\*\*  
**貧酸素情報**  
 \*\*\*\*\*

鹿児島県水産技術開発センター  
 平成27年 9月29日(火)

鹿児島湾 貧酸素情報 No.2

[1] 9月28日の調査結果

(1) 貧酸素水塊の状況

福山沖, 湾奥中央部, 重富沖, 古河原沖の15m層以深では, 溶存酸素量が4.0mg/lを下回っていました(下図参照)。

(2) 赤潮生物の出現状況

珪藻類は, 一部を除いてやや多い状況でした。

また有害種であるシャットラ マリナが最高2細胞/ml, シャットラ ガーダが最高7細胞/ml確認されました。

(3) 海況

表層水温は湾中央部で25.1~26.3℃, 湾奥部で25.3~26.6℃で平年同時期よりやや低め。塩分は27.4~32.9と平年同時期よりやや低め, 透明度は3.0~12.0mで平年同時期よりやや低めとなっています。

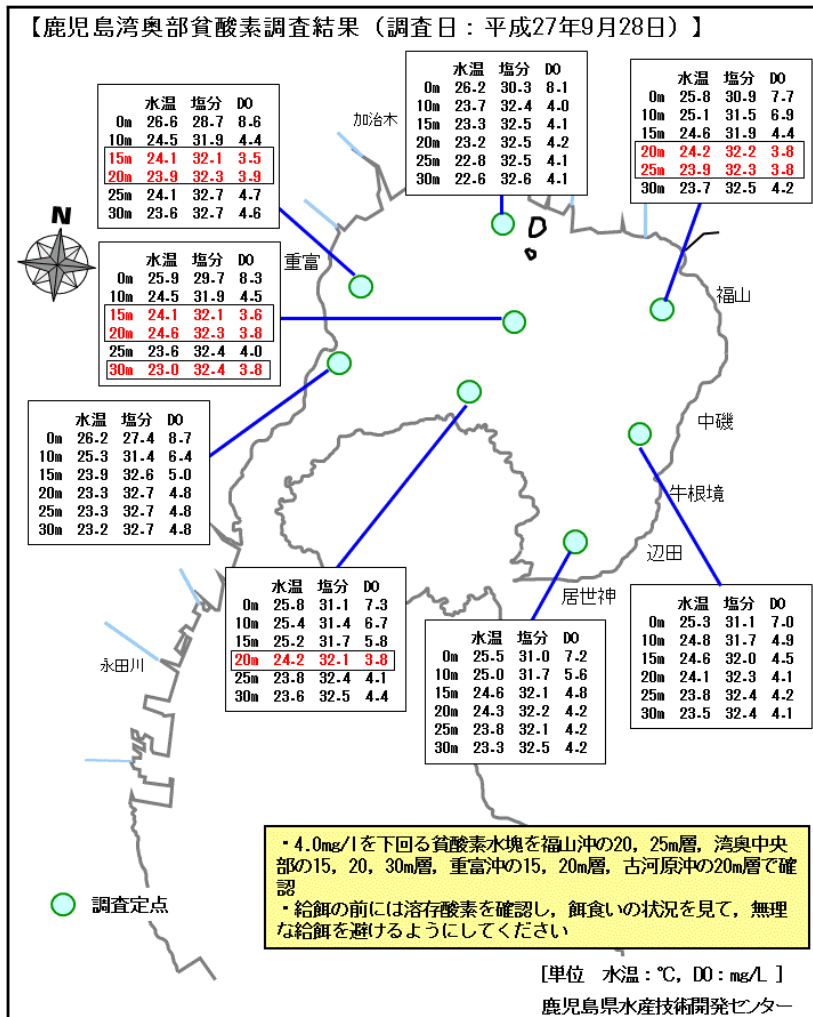
水温: 平均 25.9℃ 湾奥部 26.0℃ 湾中央部 25.8℃  
 塩分: 平均 30.5 湾奥部 30.0 湾中央部 32.1  
 透明度: 平均 5.7m 湾奥部 4.5m 湾中央部 9.3m

(平年値は平成15~26年の9月の平均値)

[2] 今後の貧酸素水塊の予想

前回調査時(8/31)には, 0m~30m層で溶存酸素量が4.0mg/lを下回る水塊はみられませんでした, 今回の調査では15m~30m層で貧酸素水塊が確認されました。

今後, 表層水温の降下によって起こる鉛直循環が活発となる10月下旬までは, 中層付近では現在の貧酸素状況が継続, または更に進行する可能性がありますので, 注意が必要です。



(注意事項)

- 給餌の際, 魚群が遊泳すると, 貧酸素層の海水が表層まで浮き上がるおそれがあります。
- 過去, 溶存酸素が4.0mg/lを下回った状況での給餌で, へい死事故が発生した事例がありますので, 注意が必要です。
- 給餌の前には, 必ず溶存酸素量を確認し, 餌食いの状況を見て, 無理な給餌を避けた方がよいでしょう。

赤潮情報(携帯電話): <http://ka.goshima.suigi.jp/akashio/i/index.shtml>  
 赤潮情報(パソコン): <http://ka.goshima.suigi.jp/akashio/newHP/index.html>